

甲賀市のヤマトサンショウウオに迫る危機

甲賀市は森林や農地が大部分を占め、多くの日本固有の両生類が身近に生息しています。その中でも、止水性のサンショウウオであるヤマトサンショウウオ（写真1）は、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、滋賀県のレッドデータブックで希少種に選定されており、個体数の減少が危惧されています。個体数の減少要因として、生息地の減少や、捕獲圧などが挙げられますが、近年になって新たな危機が迫っている可能性が浮上しています。それが、アライグマによる捕食被害です。

アライグマは北米～中米に生息しており、1970年代のペットブームで多くの個体が輸入されました。しかし、飼育放棄が相次ぎ、外来種として日本に定着し、2005年に特定外来生物に選定されました。甲賀市においても、アライグマの捕獲数は2010年の99頭以降増加傾向にあり、2021年は361頭が捕獲されました。このような背景がある中で、近年、体の一部を欠損したヤマトサンショウウオの死体（写真2）が、甲賀市の複数地点で確認されています。これらの地点でもアライグマの生息が確認されており（写真3）、アライグマの増加により、欠損被害が発生した可能性が高いと考えられます。

ヤマトサンショウウオは2～5月に休耕田や池、水路などで産卵します。アライグマは、産卵に集まってくるサンショウウオを捕食する事が日本各地で確認されています。そのため、産卵地を保全し対策することで、被害を軽減させることができるでしょう。同時に、アライグマの捕獲等を行い個体数を管理する事も重要になると思われます。現状、甲賀市のヤマトサンショウウオにどれほどの被害がでているかは未知数なので、今後のさらなる調査が必要です。

謝辞

甲賀市役所の獣害対策室には、アライグマの捕獲データをご提供いただきました。ご協力に御礼申し上げます。

河原 豪

（長浜バイオ大学 動物分子生物学研究室）



写真1：産卵場所で見つかった雌のヤマトサンショウウオ



写真2：頭部や尾部が欠損したヤマトサンショウウオ



写真3：ヤマトサンショウウオの産卵地で確認されたアライグマ